

2025 年 1 月 7 日 全 7 頁

消費データブック（2025/1/7 号）

個社データ・業界統計・JCB 消費 NOW から消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 菊池 慈陽

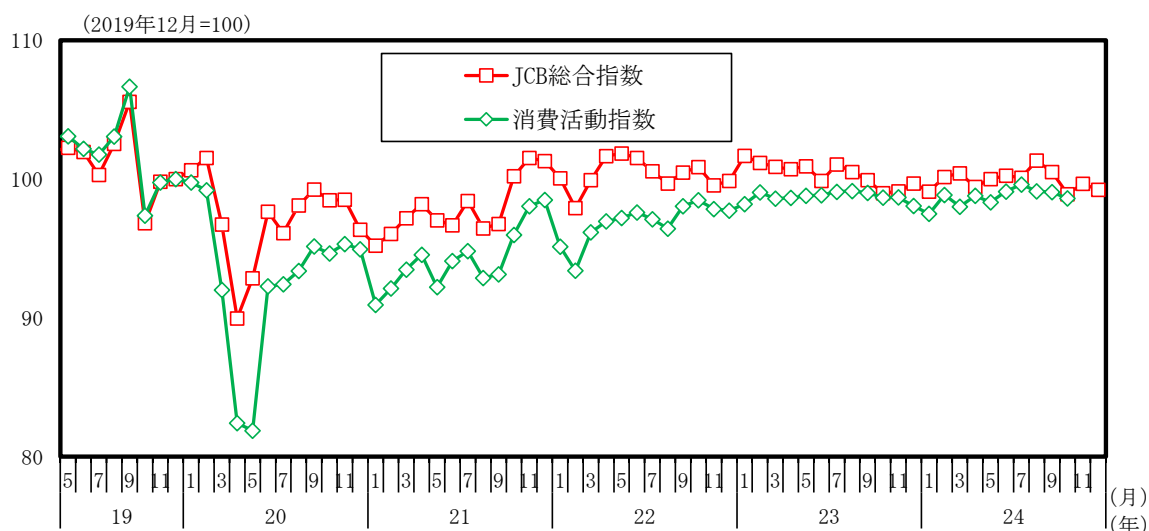
[要約]

- 2024 年 11 月の消費は財・サービスともに 10 月から増加したとみられる。財消費では、気温の低下により百貨店やアパレルなどで季節商品の販売が好調だった。他方、新車販売台数（大和総研による季節調整値）は一部工場停止の影響で減少した。サービス消費では、新幹線と旅客機の輸送量は概ね横ばいだった一方、宿泊関連と外食関連は好調だった。
- 2024 年 12 月の消費は 11 月から概ね横ばいで推移したとみている。月前半は小幅に減少した一方、後半は年末の日並びの良さからサービス消費を中心に増加した。財消費はまちまちだった。百貨店大手 3 社やアパレル大手しまむらでは、11 月に引き続き季節商品の販売が好調だった。他方、新車販売台数や JCB の家電消費額（大和総研による季節調整値）は減少した。サービス消費では、月前半は JCB 宿泊消費額（同）が減少し、新幹線輸送量や JCB 外食消費額（同）は横ばいだった。月後半は、旅客機輸送量が年末にかけて増加した。

＜消費全体の動き＞

- ◆【JCB 総合指数】 24 年 12 月の JCB 総合指数¹（大和総研による季節調整値、JCB データは以下同）によると、実質消費額は前月比▲0.4%だった。内訳を見ると、財は同▲0.7%と減少し、サービスは同▲0.0%とほぼ横ばいだった。

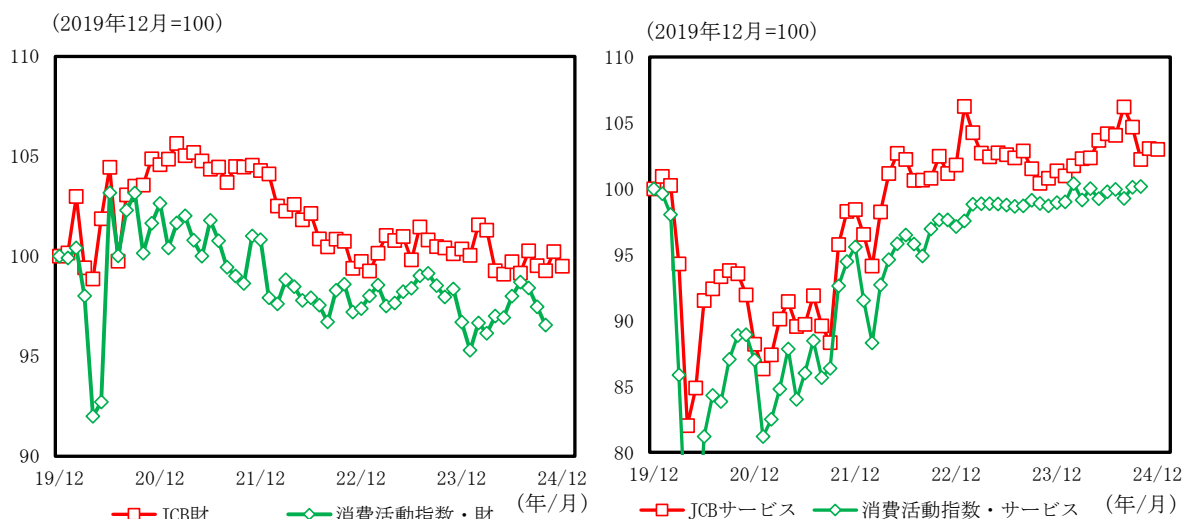
図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



（注）JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。24 年 12 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



（注 1）JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。24 年 12 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

（注 2）財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

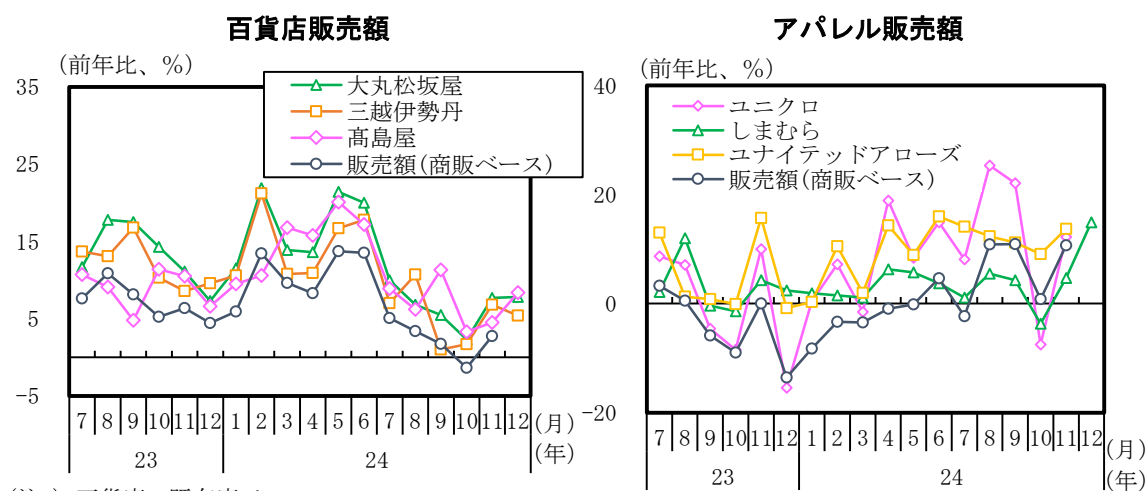
（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

＜小売関連＞

- ◆【百貨店】 24 年 11 月の百貨店商品販売額（商販ベース）は前年比+2.7%と、2 カ月ぶりにプラスに転じた。気温の低下により季節商品の販売が好調だった。24 年 12 月の百貨店大手 3 社の既存店売上高は同+5.4~8.4%だった。11 月に続き季節商品の販売が好調を維持し、ブランド品など高付加価値商品の販売も堅調に推移した。
- ◆【アパレル】 24 年 11 月のアパレル販売額（商販ベース）は前年比+10.7%と、4 カ月連続でプラスだった。24 年 12 月のしまむらの既存店売上高は同+14.9%と前月から伸び率が大幅に上昇。11 月に続いて、気温の低下により季節商品の販売が好調だった。

図表 3：百貨店・アパレルの販売額



(注1) 百貨店：既存店ベース。

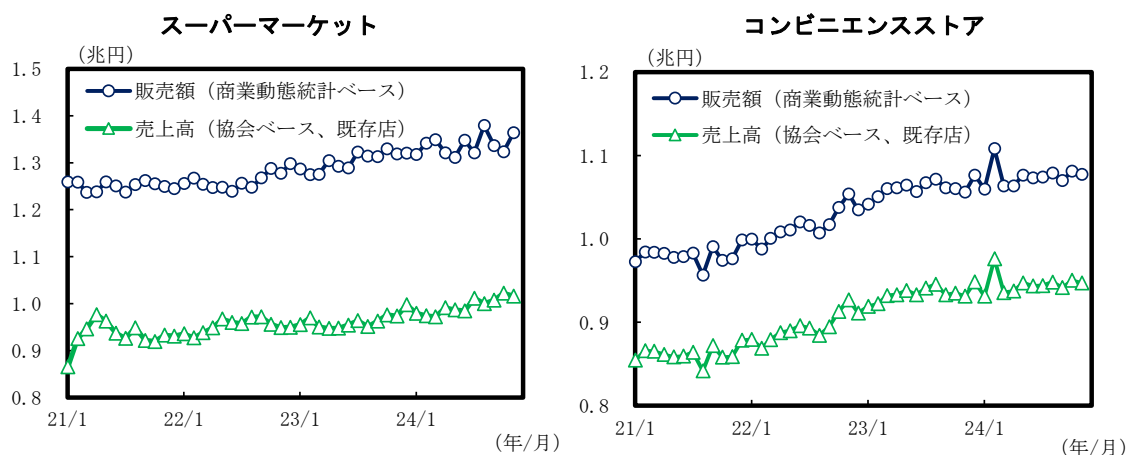
(注2) アパレル：既存店ベース。ネット通販を含む数値。
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 24 年 11 月の販売額は前月比+3.1%（大和総研による季節調整値）。衣料品（同+21.8%）の販売額が大幅に増加。
- ◆【コンビニエンスストア】 24 年 11 月の販売額は前月比▲0.3%（大和総研による季節調整値）。加工食品や非食品などの販売額が小幅に減少。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

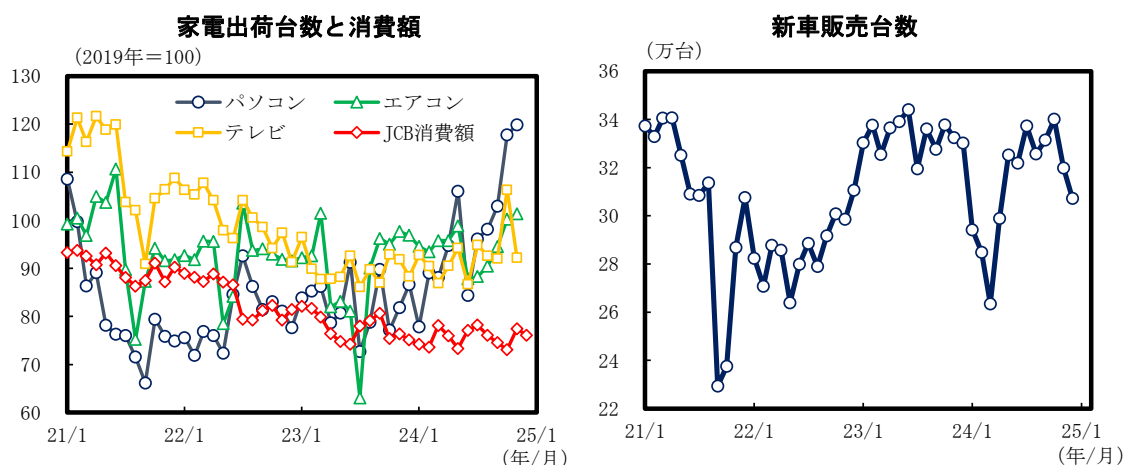


(注) 大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】24年11月の出荷台数はパソコンが前月比+1.7%、エアコンが同+1.1%、テレビが同▲13.3%（いずれも大和総研による季節調整値）。24年12月のJCB消費額（機械器具小売業）は同▲1.8%と2カ月ぶりに前月から減少。
- ◆【自動車】24年11月の新車販売台数（大和総研による季節調整値）は前月比▲5.9%。トヨタ自動車の一部工場が設備の確認作業により5日間停止した影響が表れた。24年12月は同▲4.0%と、2カ月連続で減少した。足元で押し上げ要因となっていた認証不正問題後の挽回生産の影響は、徐々に弱まっているとみられる。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



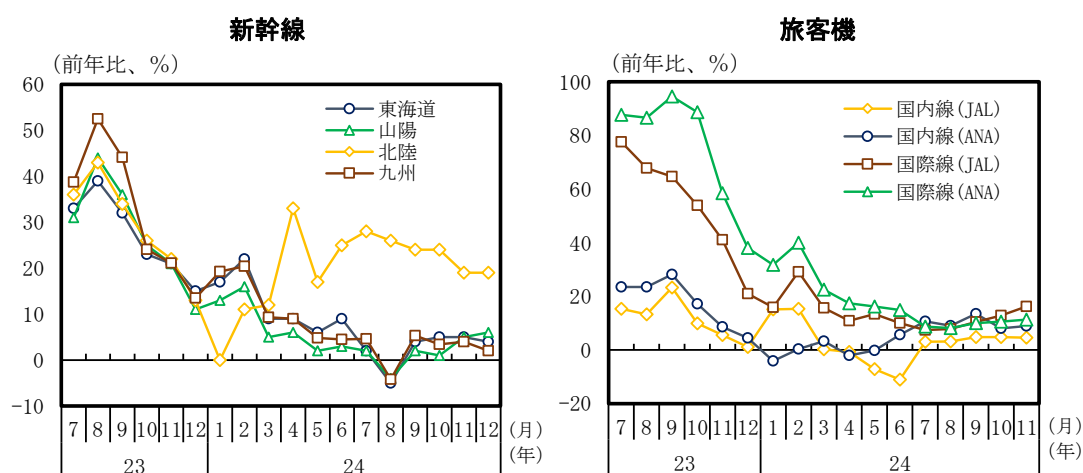
（注）大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。24年12月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

（出所）電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

＜サービス関連＞

- ◆【新幹線】24年11月の輸送量は前年比+4～19%程度。24年12月は同+2～19%程度と、伸びは各社とも前月から概ね横ばいだった。北陸新幹線は、3月に金沢・敦賀間を延伸開業して以降、堅調に推移している。旺盛な観光需要が追い風となっている。
- ◆【旅客機】24年11月の国内線輸送量（含むグループ会社）はANAが前年比+8.9%、JALが同+4.6%と、伸びはいずれも前月から横ばいだった。国際線輸送量（同）はANAが同+11.3%と横ばいも、JALは同+16.2%と伸び率が小幅に拡大した。なお、年末年始は2社ともに前年を上回り、特に国際線が好調だった。祝日と土日の並びから連休を取りやすかったため、海外旅行の需要が伸びたとみられる。

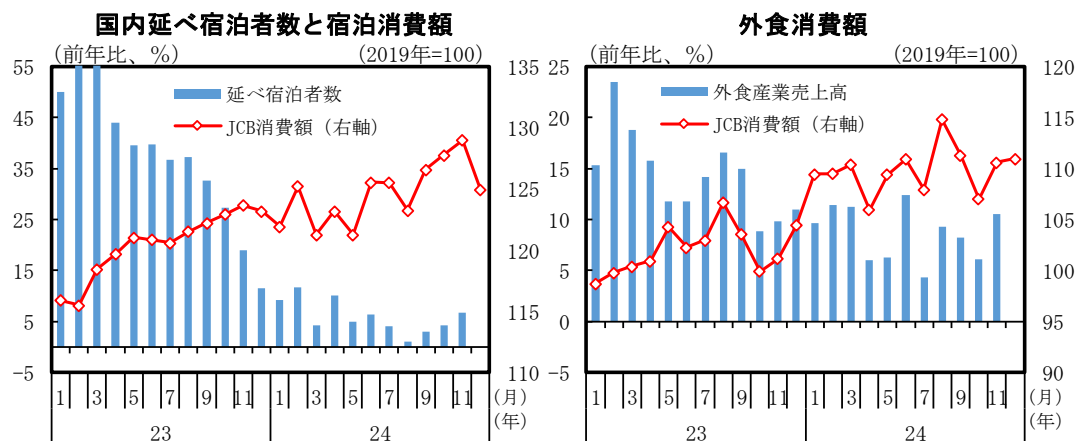
図表6：新幹線・旅客機の利用状況



(注) 24年11月の東海道は17日まで、山陽と北陸は14日、九州は18日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。
(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】24年11月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は前年比+6.7%と、3カ月連続で前月からプラス幅が拡大。24年12月のJCB宿泊消費額は前月比▲3.2%。
- ◆【外食】24年11月の外食産業の売上高は前年比+10.5%と、前月からプラス幅が拡大。24年12月のJCB外食消費額は前月比+0.3%。

図表7：国内延べ宿泊者数と宿泊消費額（左）、外食消費額（右）



(注) 大和総研による季節調整値。24年12月分のJCB消費額は月前半のデータをもとに伸び率を試算。観光庁統計は宿泊日数ベースのデータを用いている。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

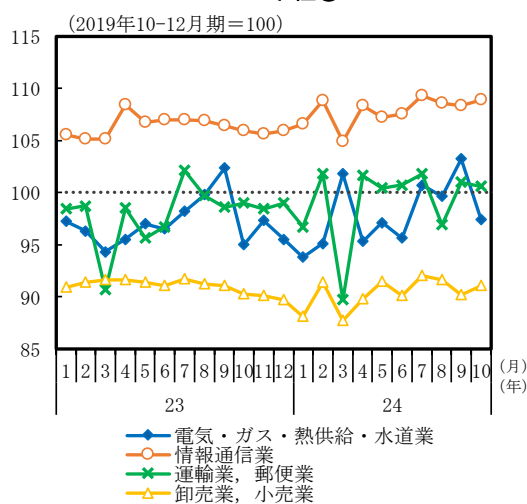
＜参考：第3次産業活動指数＞

図表 8-1：第3次産業活動指数

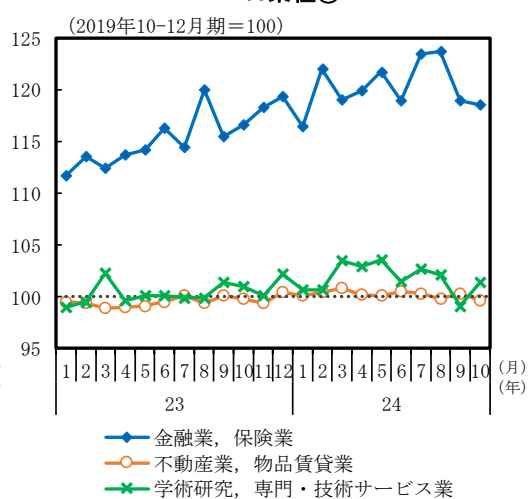
総合



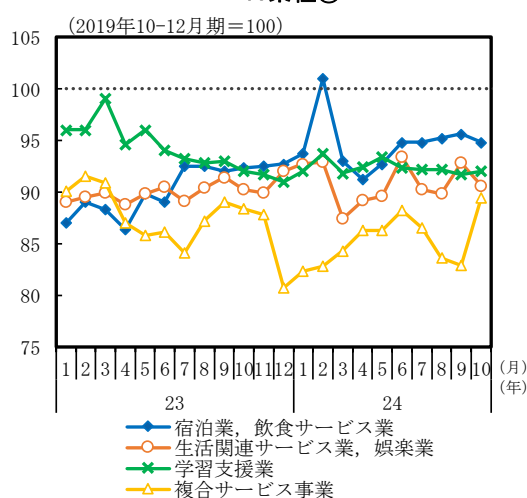
13業種①



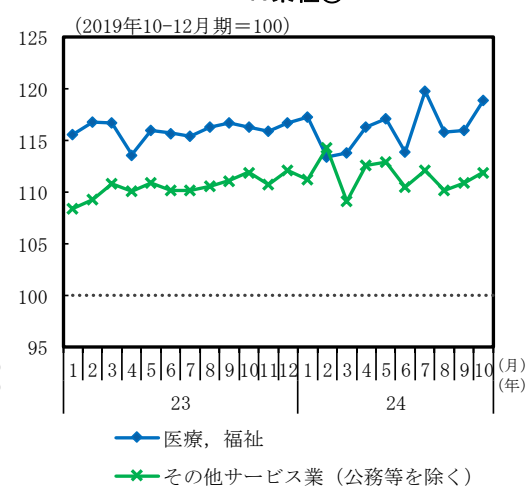
13業種②



13業種③



13業種④

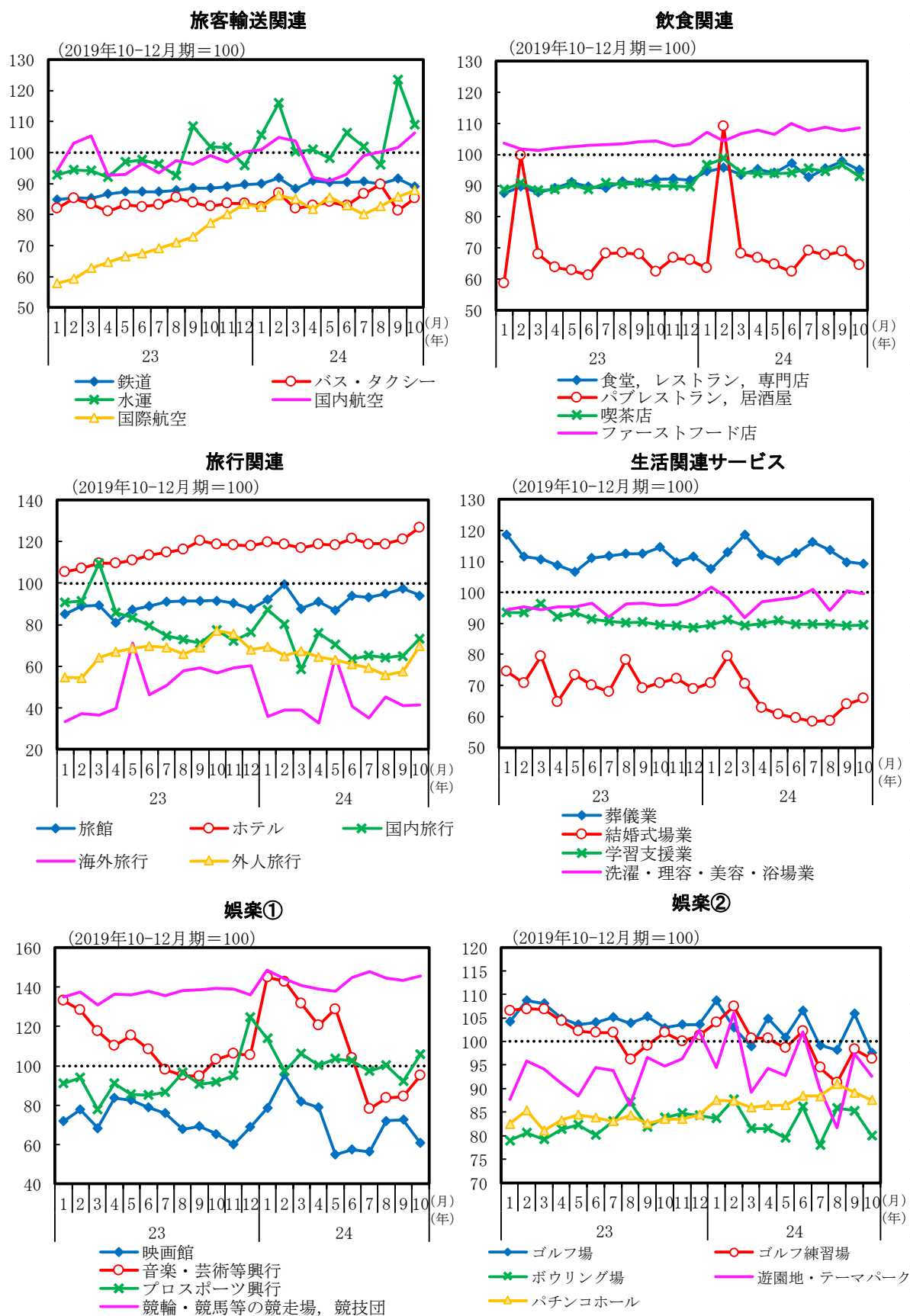


(注1) 季節調整値。

(注2) 13業種は、第3次産業活動指数の対象となっている日本標準産業分類の大分類13項目。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 8-2：運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(注) 季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成